

チームオレンジ設置ハンドブック

令和6年3月

三重県医療保健部長寿介護課
三重県オレンジ・チューター



【目次】

1.チームオレンジの整備（概要）	．．． 3
・チームオレンジとは	．．． 4
・チームオレンジの設置の流れ	．．． 5～7
・チームオレンジとコーディネーター	．．． 8
・チームオレンジコーディネーター研修	．．． 9
2.認知症サポーターステップアップ講座について	．．． 10
・ステップアップ講座の目的・講師	．．． 11
・受講対象者と講座の開催	．．． 12、13
・使用教材	．．． 14
3.チームオレンジの種類と支援範囲	
・三重県のチームオレンジ設置状況	．．． 15
・チームオレンジの種類1	．．． 16～20
・チームオレンジの種類2	．．． 21～32
・チームオレンジの種類3	．．． 33～36
・チームオレンジの支援メニュー	．．． 37
4.チームオレンジの設置に向けて（まとめ）	
・チームオレンジの基本コンセプト	．．． 38
・チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等	．．． 39、40
・（参考）チームオレンジに関する研修等の概要	．．． 41
5.チームオレンジの設置に向けてのヒントやよくある質問	．．． 42～46
6.参考資料	
・三重県オレンジチューター派遣制度	．．． 47、48
・チームオレンジに係る国・県の目標値について	．．． 49
・認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業の取扱いについて	．．． 50、51

1. チームオレンジの整備（概要）

★チームオレンジとは

認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーター（基本となる認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ講座を受講した者）を中心とした支援者をつなぐ仕組み

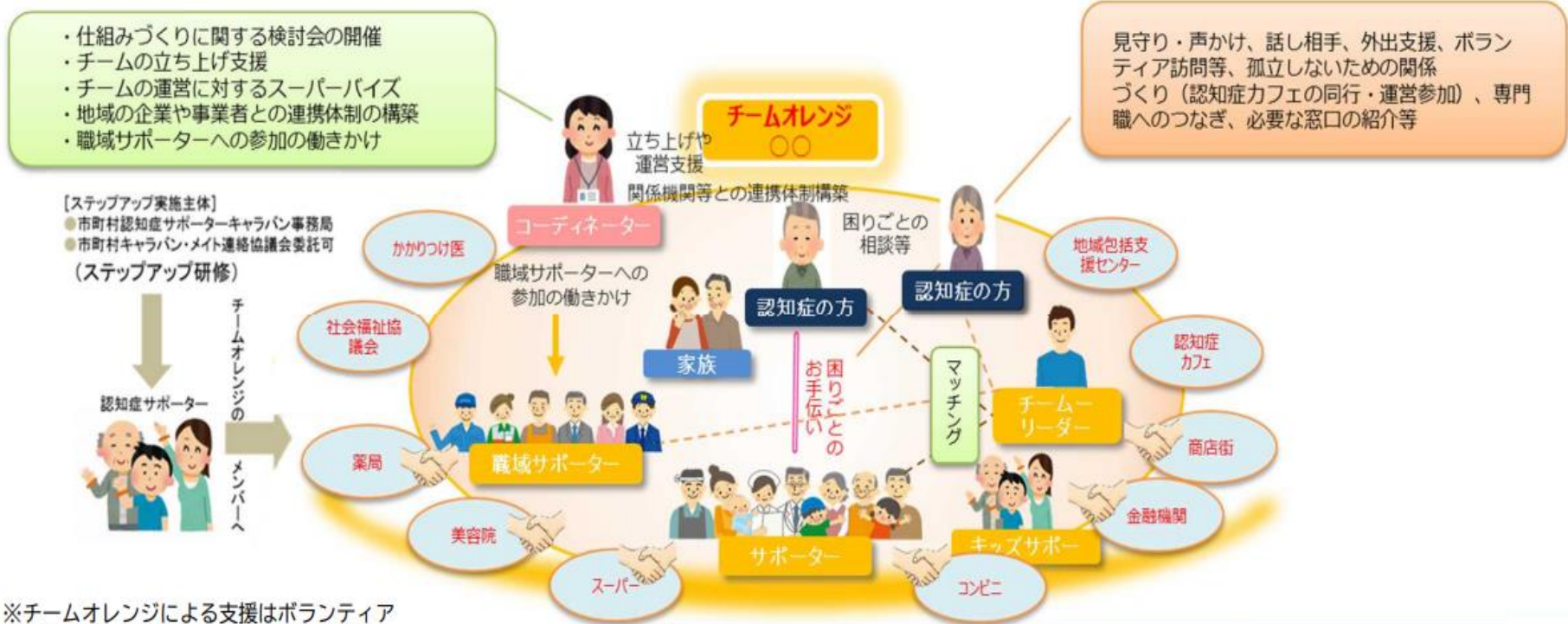
★チームオレンジ3つの基本

- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている
- ②認知症の人もチームの一員として参加している（認知症の人の社会参加）
- ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる

チームオレンジの類型	特徴
【第1類型】 共生志向の標準タイプ 活動の拠点を設置して活動	サポーター+認知症の人と家族などがいつでも訪れたりできる普段からの居場所
【第2類型】 既存拠点活用タイプ 既にある地域資源の活動の中に、認知症の人への困りごとへの対応を組み入れる	既にある「サロン」「認知症カフェ」「介護予防教室」などの活動の中に、認知症の人への困り事への対応を組み入れ、チームオレンジとして活動
【第3類型】 拠点を設置しない個別支援型タイプ 活動拠点をつくらずに支援をする	ニーズや困り事のある認知症の人のところに訪問し、支援実施

・ チームオレンジとは

【 KPI 】 各市町村 1 チーム設置



- ・ 仕組みづくりに関する検討会の開催
- ・ チームの立ち上げ支援
- ・ チームの運営に対するスーパーバイズ
- ・ 地域の企業や事業者との連携体制の構築
- ・ 職域サポーターへの参加の働きかけ

見守り・声かけ、話し相手、外出支援、ボランティア訪問等、孤立しないための関係づくり（認知症カフェの同行・運営参加）、専門職へのつなぎ、必要な窓口の紹介等

【ステップアップ実施主体】
 ● 市町村認知症サポーターキャラバン事務局
 ● 市町村キャラバン・メイト連絡協議会委託可
 (ステップアップ研修)

※チームオレンジによる支援はボランティアで行うことが望ましい。(地域医療介護総合確保基金を活用した介護人材確保のためのボランティアポイントの仕組みの活用も可能)

- チームオレンジ三つの基本**
- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。
 - ②認知症の方もチームの一員として参加している。(認知症の人の社会参加)
 - ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる

認知症当事者も地域を支える一員として活躍し、社会参加することを後押しするとともに、認知症サポーターの更なる活躍の場を整備

・市町におけるチームオレンジの設置のながれ

★行政担当者等（チームオレンジコーディネーター）を中心とし、設置を行う

→担当者は、市町の認知症の人のニーズを把握し、既存の地域資源を活用するなどして、チームオレンジを設置

★市町は、チーム員に対しステップアップ講座を実施

→チームの活動内容等の説明

【ステップアップ講座】

- 認知症の人への接し方などチームオレンジで活動するために必要な知識、対応スキルに関する講義を実施する
- チームオレンジの支援活動の内容等に応じ、地域の実情に応じて実施される
- チームオレンジへの参加を希望する認知症サポーターが受講対象

・市町におけるチームオレンジの設置のながれ

段階
1 全体スケジュールの策定

段階
2 実態把握
認知症の方の支援ニーズと
社会資源状況の把握

段階
3 チームオレンジの説明
(認知症サポーター・地域住民)

段階
4 チームオレンジの編成、
拠点予定場所の設定
第1類型、第2類型、第3類型
市町村に合った形で編成

段階1・2の詳細は
次頁にて説明

段階
5 ステップアップ講座

段階
6 チームオレンジの立ち上
げ

段階
7 チームオレンジ運営の
バックアップ

・市町におけるチームオレンジの設置のながれ

段階
1

全体スケジュールの策定

まず当該市町村で以下の計画を立てる。

- ①いつから始めるか
- ②いつまでに完了するか
- ③総計何か所設置するか
- ④それぞれどこに(活動エリア設定)
- ⑤いつまでに設置するか

オススメ!

オレンジ・
チューター
の活用



※オレンジ・チューターの詳細は「三重県オレンジチューター派遣制度」の頁を参照

段階
2

実態把握

認知症の方の支援ニーズと社会資源状況の把握

【認知症の本人の把握】

本人(認知症・MCI・要介護認定者)の数、本人の状況(年齢、性別、自立度、要介護度、介護サービス、住居形態、同居者や介護者の有無…)、生活状況などから、チームオレンジの仲間として参加できる人や支援が必要な人を把握する

【チーム構成員の把握】

認知症サポーターやキャラバン・メイトなど、チームオレンジ構成員として活動が見込まれる住民サポーターや職域サポーターの把握。チームリーダーとなるキーマンの目星をつける

段階
3

段階
4

段階
5

段階
6

段階
7



オレンジチューターの派遣は年間3回まで

・ チームオレンジとコーディネーター

○コーディネーターとは

- ・チームオレンジの整備を推進していくための中核的な役割を担う
- ・市町に一名以上配置する
- ・認知症地域支援推進員等が兼務・市町担当職員課職員が兼務も可能

○コーディネーターの役割

①チームオレンジの立ち上げ

- ・チームオレンジの立ち上げ支援
- ・チームの編成支援
- ・生活関連企業等とのつながりを強化
- ・各専門機関との連携
- ・(個人情報保護法に即した)個人情報の適切な管理・助言

②ステップアップ講座の企画・開催

- ・ステップアップ講座実施者である市町村サポーターキャラバン事務局と共同する

③チーム運営に対する助言等

- ・認知症の人の困りごと支援とサポーターのマッチング支援
- ・定例会の開催や運営に関する助言等

④自治体管内のチームオレンジネットワーク会議の構築

⑤チームリーダーを兼ねる場合

- ・認知症の人や家族の困りごと支援とサポーターのマッチング



・ チームオレンジコーディネーター研修

目的	チームオレンジの効果的な編成方法や運営のノウハウ等を伝達
対象者	コーディネーター、チームオレンジのチームリーダー等
主な講師	オレンジ・チューター
実施者	都道府県（年1回程度実施）
補助金	地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）
主な内容	<ul style="list-style-type: none">I オリエンテーションII 認知症サポーターの活動促進とチームオレンジIII チームオレンジの仕組みIV チームオレンジとコーディネーターV チームオレンジの立ち上げVI 支援メニューと支援範囲等の取り決めVII ステップアップ講座の実施についてVIII 演習（GW）・発表

2. 認知症サポーターステップアップ講座について

認知症サポーター養成講座で学んだ事を土台に

実践の場で必要となる認知症の知識

**身近に交流し必要に応じて手助けするための対応
スキルを修得することを目指す。**

ステップアップ講座の実施主体

市町村(都道府県)認知症サポーターキャラバン事務局

**市町村(都道府県)キャラバン・メイト連絡協議会等への委託も可。
コーディネーターは、市町の認知症サポーターキャラバン事務局
と連携して開催企画する。**

・ 認知症サポーターステップアップ講座について

○ ステップアップ講座の目的

● 近隣互助活動をする認知症サポーター

チームオレンジの趣旨を理解

近所づきあい、友人づきあいの延長戦上で認知症の人への適切な接し方を心得ていることが不可欠

● 活動しようとする認知症サポーター

チームオレンジの目的・意義を理解

認知症の人を実際に支援するための知識・技能を必要に応じて身につける

○ ステップアップ講座の講師(ステップアップ講座のテーマに応じて選定する)

● キャラバンメイト、またはこれに準ずる者

● 認知症地域支援推進員

● 保健師

● チームリーダー

● オレンジコーディネーター

● オレンジチューター

● 実施市町村が講師として認める者

・認知症サポーターステップアップ講座について

○受講対象者と講座の開催

認知症サポーター養成講座修了者

(チームオレンジメンバーまたはメンバー予定者)

チームオレンジ

立ち上げ時……メンバーを集めて開催する

立ち上げられている時……早急に開催する

(活動に必要な知識・技能を習得する講座を修了している場合簡略化可能)

活動開始後も継続的に随時、開催することが望ましい

市町村等が活動希望者を募って開催し、チームを立ち上げる方法も

ステップアップ講座の受講にはサポーター養成講座の受講が必須



・ 認知症サポーターステップアップ講座について

○ 受講対象者と講座の開催

メンバーの経験、今後の活動目標等を考慮し柔軟に構成

受講対象者の実状、チームオレンジの活動内容等を考慮し、設定をする。

● 活動開始時

チームメンバーがチームオレンジを十分に理解していることが重要。

認知症サポーターが地域で認知症の症状の理解、対応法を習得できるような講座の実施。

● 活動開始前、活動中のメンバーを対象

受講しやすいように研修内容を分割して順次行うことも可。

・認知症サポーターステップアップ講座について

○使用教材

研修内容に応じて自治体事務局ごとに選定し、用意する
使用する際は、入力専用Webを通して申し込み

☆『チームオレンジ運営の手引き』

★『認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン』

★『認知症の理解～「つなぎ」のための情報整理』

★『認知症サポーター ステップアップ講座 教材1 認知症の理解を深める』

★『認知症サポーター ステップアップ講座 教材2 認知症の発症リスクを減らす』

★『チームオレンジステップアップ教材 高齢者の感染症予防と熱中症予防』

★『チームオレンジステップアップ教材 体力・知力で地域との交流』

★『チームオレンジステップアップ教材 いざというときの救急蘇生法』

(全国キャラバン・メイト協議会より ★印:有償頒布 ☆印:無償頒布)

・三重県のチームオレンジ最新設置状況

★令和6年3月末現在、11市町にて設置済み

	活動人数	チーム数
津市	43名	1
伊勢市	67名	9
松阪市	37名	1
桑名市	20名	1
鈴鹿市	117名	1
亀山市	7名	1
鳥羽市	20名	1
木曾岬町	5名	1
東員町	29名	1
明和町	19名	2
玉城町	83名	1

活動内容は市町によって異なるため、詳細については、各市町認知症施策担当課にお問い合わせください。

第1類型 「共生志向の標準タイプ」

* 地域の交流拠点(拠り所)を設置

- ・サポーター等の活動の拠点であるとともに、認知症の人と家族などが、いつでも訪れたりできる普段からの居場所(より所)として存在
- ・サポーター以外の多様な人々の参加が前提(地域交流の場)
《メリット》
 - ・認知症の人の社会参加へのハードルが低くなる
 - ・共(伴、友)に集うことにより、サポーターと認知症の人との「顔見知り」「なじみの関係」が成り立ちやすい。
 - ・定期的に来所されることにより、利用者の状態がわかりやすい
→困りごととマッチングの支援がわかりやすい
 - ・顔見知り→日々の支援に繋がりがやすい



《デメリット》

- ・簡単には場所が見つからない(居場所には雰囲気が必要)
- ・運営管理が必要
- ・維持費がかかる
- ・地域のより所なので、どんな人でも参加が可能

第1類型「共生志向の標準タイプ」発足の例

※ 地域の拠り所を、チームオレンジによって新しく創設・運営するタイプ

地域の実態把握

地域住民同士で
交流できる場所がない...

01

認知症の人、家族、認知症サポーターの声
「好きな時に集まれる拠り所を地域に作りたい！」

02

場所は、集まりやすい「〇〇公民館」に決定！

03

チーム員にステップアップ講座を開催

04

本人のニーズを聴き、チーム員にできる活動を決める
「畑がしたい」「みんなで〇〇を料理して食べたい」etc.

05

活動の実施と振り返り、活動の継続へ

【鈴鹿市】 チームオレンジ鈴鹿

《第1類型》

○認知症のご本人・ご家族を「オレンジ」、サポートをする方々を「フレンド」と称して活動実施

【1】 オレンジカフェの運営

包括圏域に1つずつ（8か所）にオレンジカフェを設置。その運営を各圏域にお住まいのフレンドさんを中心に月に1回の開催。

【2】 グループ活動支援

（1）既存の認知症関連事業へのチームオレンジの協力

①若年性認知症者の会「レイの会」の方による洗車活動

若年性認知症の方の社会参加活動として社協の公用車を洗車。
フレンドはサポートを行う。

②おれんじルーム

認知症本人とそのご家族が参加。折り紙、すずか踊り、将棋、お話などを共にする。

③スローショッピングの日

誰もが安心して買い物ができるように「おもいやりレジ」「おもいやりカフェ」を設置。
マックスバリュ東海株式会社と協力して実施。フレンドによる買い物の付き添い。
令和5年12月に鈴鹿店でもスタートとなり、合計2店舗での開催となる。

④認知症カフェへの協力

市に登録している認知症カフェへの参加・協力。

（2）周知活動グループ

イベントや各活動に使用するグッズ(オレンジロボのマスコットやADイベントの啓発物等)の作成。

～県内のチームオレンジ活動内容～

【鈴鹿市】 チームオレンジ鈴鹿 《第1類型》

○オレンジカフェの運営



～県内のチームオレンジ活動内容～
【鈴鹿市】 チームオレンジ鈴鹿 《第1類型》

○スローショッピングの日の様子



第2類型「既存拠点活用タイプ」 * 既にある拠点の活用

- ・ 既にある「まちなかサロン」「認知症カフェ」「介護予防教室」などをチームオレンジとして活用する。
- ・ 運営を法人等がしている場合は、住民主体サポーター主体の運営へシフトしていくために、法人との協力関係の整理が必要となってくる。
- ・ 法人にも職域サポーター（住民サポーター）としてチームオレンジの一員として活動する。

《メリット》

- ・ 既に既存のより所（拠点）がある。
- ・ 運営管理してくれる人がすでに存在している。
- ・ より所（拠点）をつくるハードルが下がる。
- ・ チームオレンジのメンバーも気軽に参加できる。
- ・ 顔見知り→日々の支援に繋がりがやすい。



《デメリット》

- ・コーディネーターと既存の施設(法人)との連携が必要。
- ・三つの基本の整備をしっかりとしておく必要性が出てくる。

● チームオレンジの三つの基本

- 1, ステップアップ講座修了者及び予定のサポーターでチームが組まれている
- 2, 認知症の人もチームの一員として参加している
- 3, 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続的に支援できる

・住民主体になりにくい

- ・既存の拠点(法人など)と主旨が一致しないと運営がうまくいかない場合もある。
- ・本人や家族のニーズがそこで完結できるわけではない。

第2類型「既存拠点活用タイプ」発足の例

※ 既にあるサロン、認知症カフェ、介護予防教室などの活動の中に、
認知症の人への困り事への対応を組み入れ、チームオレンジとして活動

地域の実態把握

01

認知症の人、家族、認知症サポーターの声
「認知症になっても、いつまでもサロンに通い続けたい！」

02

チーム員にステップアップ講座を開催

03

本人のニーズを聴き、チーム員にできる活動を決める
「ご近所さんで誘い合ってみんなで行こう！」「帰りに喫茶店に寄って帰ろう」etc.

04

活動の実施と振り返り、活動の継続へ

～県内のチームオレンジ活動内容～

【伊勢市】 チームオレンジ 《第2類型》

【伊勢市の特徴】元々ある地域の集まりには認知症の方が参加していたり、認知症支援に関心をもっている方は多い。そのような既存の地域活動団体に働きかけ、認知症サポーターステップアップ講座を開催し、既存の社会資源を活用する形でチームオレンジを結成している。市内に複数のチームオレンジがある。

【活動内容】9つのチームがそれぞれの集いの場やカフェ、会食会などを拠点に、認知症のある利用者の見守りや話し相手を行ったり、日常の地域の中でも声かけなどの支援を行っている。

チームオレンジとなることで、チームとして活動する認識をもち、認知症になっても身近な地域で集まる場づくりの活動を実践している。

チームオレンジ名

家族の会つどい

オレンジカフェほほえみ

認知症カフェあこや

認知症カフェさくら

憩いの家たまちゃん

みなとカフェ

オレンジつどい

北浜まちづくり協議会地域福祉委員会

いきいきサロンひなたぼっこ

認知症サポーターステップアップ講座での講義や体験を通して、認知症の理解を深め、チームオレンジにつなげている。



認知症の方への関わり方についてグループワーク



外宮参道でのスローショッピングを体験

～県内のチームオレンジ活動内容～

【亀山市】 チームオレンジかめやま

《第2類型》

【支援内容】 普及啓発、認知症カフェ支援

【活動地域】 亀山全域

【活動内容】

- 定期的にチーム員が集まり、意見交換を実施
- 近所の集まりや道ですれ違った際に声かけを実施
- 毎月、図書館において普及啓発の一環として公開講座を企画・実施
- 認知症カフェの運営支援

以下のグループで計画を立て、活動しています。

○認知症カフェ支援グループ

○認知症普及啓発グループ

○個別支援グループ

誰もが暮らしやすいまちをめざして

～知ってあんしん認知症～

ぜひ参加ください



誰もが住み慣れた場所で暮らし続けられるよう認知症の理解を深め、
ともに支え合えるまちづくりを目指して、認知症に関する講座を開催しております。

開催日	内容
令和5年7月26日(水)	「認知症サポーター」の役割を！ ～アンチ・マネージメント～
令和5年8月23日(水)	いつでも元気であるために ～今から始めよう！アイル手帳～
世界アルツハイマーデー 令和5年9月21日(木)	「認知症講演会」
令和5年10月25日(水)	知ってあんしん 認知症と薬の話
令和5年11月22日(水)	消費生活アドバイザーに巻き込まれないために
令和5年12月27日(水)	寄り添ってあゆむ。認知症の方の気持ちに ～カードゲームを使って考えよう～
令和6年1月24日(水)	みんなで教おう「認知症者」 ～「認知症者」に対する「共感」地域づくりについて～
令和6年2月28日(水)	認知症とともに ～人と人をつなぐ認知症法～
令和6年3月27日(水)	大切な人が認知症になったらご自分の 家族の気持ちや介護事例

会場 → 市立図書館 1階 多目的室 (亀山市御幸町318-1)

時間 → 13時30分～15時

定員 → 各回 30名程度(12月のみ20名)



気が向いた時に来て、いつ帰っても良い気軽な場所です。

この日は認知症サポート医が参加します。
身近なことを相談したり、気軽にしゃべりましょう。

10/17・ 11/21・ 12/19
R6.1/16・ R6.2/20・ R6.3/19

時間 → 13時30分～15時30分
*ご都合の良い時間に来てください。
*出入り自由です。 場所 → あいあい 2階 大会議室
どなたでも参加できます！
下記に該当する方はぜひご参加ください。
*認知症のことが気になる方 *認知症の方を介助している方

カナリアカフェとは？
*気軽に集まり、話をする場所があります。
*専門職がいますので相談することができます。
*知りたいことなど一緒に学べ、お手伝いができます。
*イベントを開催することもあります。

参加無料
申込不要

カナリアカフェ(元鳥丸カフェ)のお問い合わせ先
亀山市健康福祉部地域福祉課高齢者支援グループ
☎0595-84-3312

【玉城町】 サポーターさくら 《第2類型》

●立ち上げまでの経緯

玉城町では認知症サポーター「サポーターさくら」が平成20年から活動。令和4年11月13日の認知症予防講演会において、チームオレンジ宣言をした。

支援内容

(1) つどい場「協」

週3回開所。

開所時間は誰でも自由に参加可能。手芸や将棋等好きな活動をして過ごす。

(2) 家族会の実施

2カ月に1回開催。本人や家族が集まる機会を提供している。

(3) 一般介護予防事業への参加

サポーターとして介護予防教室運営に参加。

(4) ほか

認知症サポーター養成講座の開催、ケーブルテレビを活用した啓発劇の実施、高齢者見守り・声かけ訓練等への協力

～県内のチームオレンジ活動内容～

【玉城町】 サポーターさくら 《第2類型》



～県内のチームオレンジ活動内容～

【桑名市】 チームオレンジはなみずき 《第2類型》

チームオレンジ立ち上げまで

■ 認知症にやさしい 地域をめざして

東部地域包括支援センター
の担当地域の住民へ
認知症サポーター養成
講座&ステップアップ
講座開催

■ 活動意欲のある 住民へ実践者研修

ステップアップ講座を
修了した方で活動意欲
のある23名を対象に
オレンジサポーター実践
者研修と実習を開催

■ チームオレンジ はなみずき結成

実践者研修で一緒に学んだ住
民でチーム編成。地域の薬局
のカフェスペースを拠点に毎
月集まり、認知症本人や家族
も交えて活動



～県内のチームオレンジ活動内容～

【桑名市】 チームオレンジはなみずき 《第2類型》

活動内容

■ 思いを叶える。歩こう会の開催



散歩が趣味で歩こう会に入っていたAさん。しかし、認知症が進み参加できなくなった。再びAさんが散歩を楽しめるようにメンバーで歩こう会を企画し開催

■ 認知症サポーター養成講座で活躍

メンバーが小学校での認知症サポーター養成講座で本人、介護者としての経験を話すなど地域で活躍

■ 定期的な活動を通じて、さまざまな役割が担えるチームオレンジへ

月1回のカフェミーティングなど定期的な活動がさまざまな役割を担える場となっている

○認知症の本人、家族のやりたい！楽しい！を叶える場

○本人が役割を担う社会参加の場

○介護者が本人と楽しい時間を過ごす介護者支援の場

○メンバーが認知症本人、家族と出会う場
など

【明和町】 チームオレンジ「カフェとも」 《第2類型》

令和5年2月に設置。カフェとも16名。(令和6年1月時点)
認知症カフェ「脳の健康つながりサロン」にて、認知症ご本人やご家族のお話を傾聴したり、ご本人のワークショップ等のサポートを行っている。
アルツハイマー月間の啓発の取り組みのための物品作成などを行っている。

普段の座談会の様子



アルツハイマー月間や文化祭等での啓発活動に使用する作品づくり



役場玄関に飾りました。

ご本人さん、昔は手芸がお得意ということから、手縫いで作っていただきました。
「手が覚えとるなあ」と一言。

「認知症になってもしたいこと」をテーマに書いてもらった意見がこんな素敵な作品に。

【明和町】 チームオレンジ「ひまわり」 《第2類型》

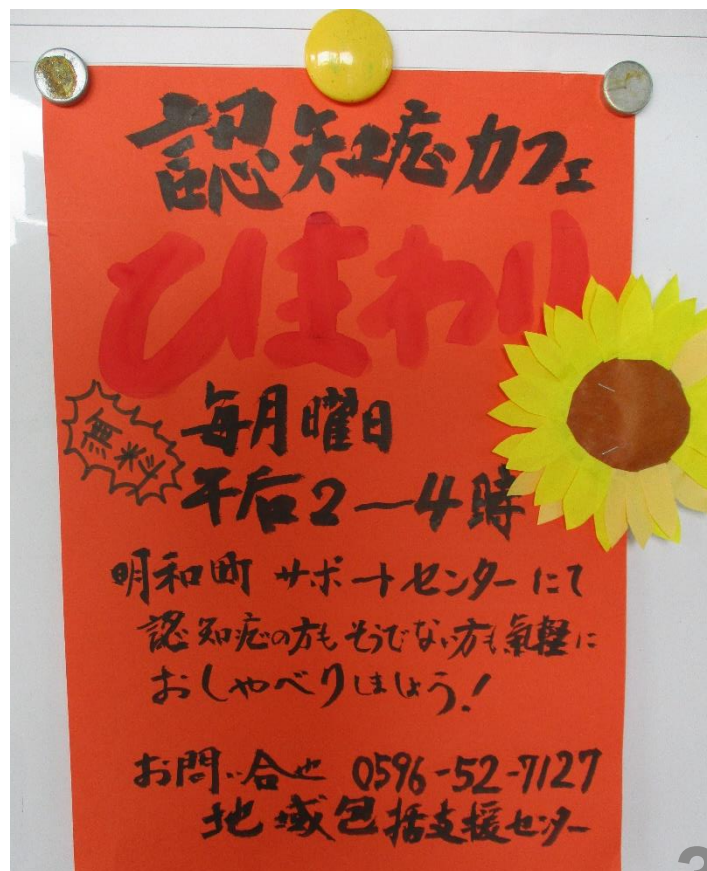
令和6年1月に設置。

認知症サポーターステップアップ講座を受講された地域の方々が、認知症カフェ「ひまわり」を開設し、チームオレンジを結成。

- 毎週月曜日に開催し、認知症ご本人や介護者の方々の参加があります。
- 毎月1回（不定期）、うたごえ喫茶を開催します。懐かしい名曲の数々を一緒に楽しめます。
- ご相談内容によっては、地域包括支援センターと連携を行います。



令和5年12月、ステップアップ講座を開催。認知症看護認定看護師による講話とグループワークを行いました。



【東員町】 チームオレンジ 《第2類型》

【認知症普及啓発】

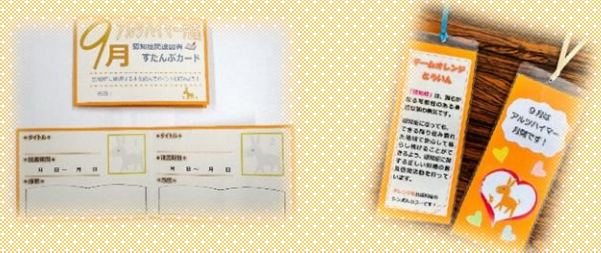
○9月のアルツハイマー月間には図書館で普及啓発

9月のアルツハイマー月間に向けて啓発用グッズを製作！
それぞれ得意なことを活かしながらみんなで作業！



○認知症関連図書すたんぷカード事業

9月から約2か月間、図書館にて認知症啓発活動！
すたんぷカードも多くの方に参加してもらい大盛況！



【勉強会と意見交換会】

認知症の勉強会や活動内容についての
グループワークなどみんなで定期的に集まって検討！



【まめまちカフェ（認知症カフェ）支援】

【ランチミーティング】

第3類型「拠点を設置しない個別支援タイプ」



* 活動拠点を設置しないタイプ

- ・活動の拠点が確保できない場合でも実施できる方法
- ・既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し活動していくことも考えられる。

《 メリット 》

- ・目的が明確化される。(拠点を作ることが目的になってしまうといけない)

《 デメリット 》

- ・サポーターや認知症の人や家族との交流の機会が少ないので、困りごとと支援のマッチングのための情報収集と調整に手間が生じる可能性がある。
- ・チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらいので、LINEやメール等を活用した運営が望まれる。
- ・チームリーダーの力量が求められる。

第3類型「拠点を設置しない個別支援タイプ」発足の例

※ ニーズや困り事のある認知症の人のところに訪問し、支援実施

01

認知症の人、家族、認知症サポーターの声
「助け合いの仕組みが必要！」

地域の実態把握

独居、高齢者世帯が多い...

02

住民主体型の助け合い活動をしている団体のメンバーに
ステップアップ講座を開催

03

本人、家族、ケアマネージャー、認知症地域支援推進員
から介護保険では賅えない、ちょっとした生活の困りご
との相談が入る

「電球を変えてほしい」「庭の手入れをしてほしい」etc.

04

活動の実施と振り返り、活動の継続へ

【津市】 チームオレンジ・あしたば

《第3類型》

グループ名	内容
○認知症カフェ支援グループ	現在津市内にある認知症カフェの活動支援および必要に応じてグループメンバー自ら認知症カフェを開催する等、認知症カフェの地域への定着を図っていきます。
○認知症普及・啓発グループ	認知症に対する地域の理解を深める活動、啓発媒体の作成、普及啓発の企画をしていきます。
○認知症サポーター養成グループ	認知症サポーターへの勧誘やグループメンバーでの認知症サポーター養成講座の開催を通じて、多世代の認知症理解を広めていきます。
○個別支援グループ	認知症の人やその家族の困りごとに対して、個別支援（例：話し相手、散歩の同行、定期的な見守り、趣味活動継続のお手伝い等）を行っていきます。



「チームオレンジ・あしたば」 全体会の様子

→上記グループに分かれて、ど
ういった活動をしていくのか、
今後の活動の方向性を話し合っ
ています。

～県内のチームオレンジ活動内容～ 【津市】チームオレンジ・あしたば 《第3類型》

認知症啓発を目的として、「認知症にやさしい街づくり」への理解や「認知症サポーター」への参加呼びかけを行いました。

★アルツハイマー月間啓発 9月1日、22日午前 イオン津南



メンバーが集まって啓発物の準備をしました。

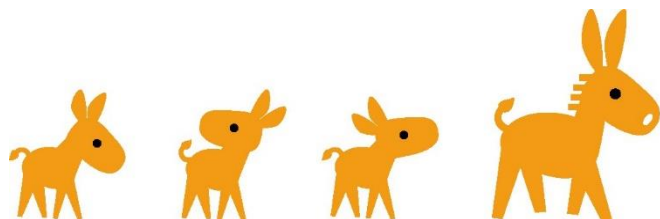


★オレンジウォーク津 11月23日午前 津駅周辺



・ チームオレンジの支援メニュー

- 外出支援(通院や買い物、散歩、お墓参り、旅行)
- 見守り・声かけ
- 話し相手
- 認知症の人への居宅へ出向く,出前支援
- 交流拠点の運営
- 子供や学生の認知症に関する理解促進のため、子ども・学生向けの認知症サポーターを地域で育てていく



4. チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

1) チームオレンジの基本コンセプト

- 認知機能が低下しても、**仲間として迎え入れて付き合ってくれる仲間**（チーム）がいるという安心感

- 認知機能の低下が引き金となって、閉じこもるようになり廃用症候群が悪化していくことを予防するため「**自分の思いを汲んでくれる**」

交流の場、居場所を早期に提供

（社会と繋がることも認知症の薬の一つ）

- 孤立による認知機能の悪化を先送りして、**住み慣れた地域においてできる限り継続して暮らせる機会**の提供

- こうした活動で住み慣れた地域で生きがい活動を創出

・ チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

2) チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等

① 活動準備の段階（主に行政・包括支援センター）

- 初期の認知症の人の暮らしぶりなど地域課題の把握、サポーターの中で認知症の人や家族への支援に関心のある人の把握を通して、地域課題と社会資源マッチングを検討
- 地域課題への解決へ、共に取り組むきっかけづくりとして、研修会や語らいの会など活用
- 認知症サポーター養成講座では第1ステップの正しい知識を持つことに併せ、第2ステップとなる認知症の人への支援事例と若年性認知症の人の社会とのつながり方を紹介し、地域活動へ意識付け

② 活動展開の段階（チームオレンジ）

- 「集う」ことを目的とするのではなく、「集う」という手段を通じて「楽しく参加する」ことにより、孤立化を予防する交流の場を目的として企画運営する
- 誰でも気軽に参加できるようにし、「楽しむ」「学ぶ」「相談できる（相談支援）」という不可価値をもつ
- 参加しやすい集いの場として、高齢者や若年性認知症の診断を受けた方にもなじみの介護予防拠点施設・地域の空き家を活用

・ チームオレンジの設置にむけて（まとめ）

2) チーム立ち上げのポイント・運営の工夫等

③ 参加意欲を継続する工夫

- 認知症の人を特別視するのではなく、一般住民として参加しやすい雰囲気を維持する
 - 「集う」ことを通じて、各参加者が何をしたらよいのかを気づけるように配慮する
 - 必要な場合は振り返りの時間をもうけて集う人たちの状況やかかわり方、今後の対策について共有する
 - 「認知症の人」ではなく、認知症と共に生活していく「一般住民」という視点で捉え、認知症の人やその家族だけでなく、地域住民が参加しやすいような取り組みの工夫をする
 - （例） 毎週の決まった曜日に開催
 - 自分の居心地の良い空間を確保（スペースはいくつもあった方がよりベター）
 - これまでの関係性の中でマッチング（寄り添いサポート）
 - 出来ることはどんどんやってもらえるような配慮を忘れない
 - 地域の人の出番（得意なことを披露できるスペースがある）
 - お互いに声をかけ合い、傾聴
 - 相談支援や情報提供を行い、必要に応じて専門機関につなぐ（リンクワーカー）
- ※ 専門機関とは… 地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、医療機関など

・ (参考) チームオレンジに関する研修等の概要

NO	研修等	目的	対象者	主な講師	実施者	補助金等
1	オレンジチューター研修	チームオレンジコーディネーター研修の講師を要請	都道府県が推薦する者	研修実施機関が選定する者(現在は全国キャラバン・メイト連絡協議会)	研修実施機関	認知症サポーター等推進事業
2	チームオレンジコーディネーター研修	チームオレンジの効果的な編成方法や運営のノウハウ等を伝達	コーディネーター	オレンジ・チューター	都道府県	地域医療介護総合確保基金(介護従事者確保分)
3	ステップアップ講座	チームオレンジのメンバーを養成	チームオレンジへの参加を希望する認知症サポーター	キャラバン・メイト等	都道府県	介護保険事業費補助金
					市町村	地域支援事業交付金

5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

チームオレンジの設置に向けて、県に寄せられた意見などから、設置に向けてヒントになると感じたこと

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<ul style="list-style-type: none">・ニーズの把握・ニーズとマッチング・多機関との連携、協働	多くの方は介護サービスにつながっている。しかし、つながるまでに認知症の人のニーズや困りごとを把握することが出来る機関や専門職などから、認知症の人のニーズを聞くことが可能か。	例えば、医療機関の回復期病棟に入院中の認知症の人のニーズを作業療法士など専門職は把握している。 退院時に介護保険サービス以外に、認知症の人のニーズをつなぐ先としてチームオレンジが考えられる。
<ul style="list-style-type: none">・ニーズとマッチング	認知症の人のニーズと、サポーターのできることをどのようにマッチングしたらいいか。	認知症カフェに参加される方は何かしたいことや、得意だったこと等がある。（囲碁、将棋、お料理、手仕事など） 例）サポーターのなかにパン作りが得意な人がいて、パン好きの認知症の人とともにパン作りをした。
<ul style="list-style-type: none">・認知症カフェとチームオレンジ	認知症カフェは29市町すべてにあるが、認知症カフェをチームオレンジにするには、どういったことが必要か。	<ul style="list-style-type: none">・認知症カフェをチームオレンジにするという発想だけでなく、チームオレンジの活動の場として活用することも検討できる。・認知症カフェで認知症の人のニーズを把握することが可能。その後はニーズとチームオレンジの活動をマッチングする。

5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<p>・ 日中の居場所（デイサービス等）とチームオレンジ</p>	<p>デイサービスの利用者で、囲碁や将棋がしたい、散歩がしたいといったニーズがある。</p>	<p>認知症の人のニーズをチームオレンジにつなぐ。 チームオレンジのメンバーで、ニーズに応えられる人とマッチングする。事業所の了承が得られたら、デイサービスへ行ってご本人の支援が可能。</p>
<p>・ 認知症の人の参加</p>	<p>認知症の人でもチームの一員として（認知症の人の社会参加）チームオレンジに参加することが望ましいとなっているが、参加可能な認知症の人が見つからない。</p>	<p>・ チームオレンジとは、チームの中に支援する認知症の人を含む、と位置付けられている。 そういったことから考えると、認知症カフェやデイサービス利用の認知症の人のニーズを把握した関係者が、チームオレンジにつないで、メンバーが認知症の人の居場所を訪問して支援するということも可能ではないか。 大切なことは、認知症の人のニーズを把握して、ニーズとチームオレンジの活動がマッチングされていること・認知症の本人の意向をチームオレンジの活動に反映する機会を設けることが必要である。</p>
<p>・ チームオレンジの良さ、強み</p>	<p>サービス利用を断る認知症の人がいる。家族も困っている。認知症初期集中支援チームやケアマネージャーに相談が入る。チームオレンジにつないでも良いか。</p>	<p>認知症の人の多様なニーズに応えることが出来ることがチームオレンジの強みである。</p>

5. チームオレンジ設置にむけてのヒント

カテゴリー	課題や疑問点など	ヒント
<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業をはじめ他事業との連携 	<p>チームオレンジのメンバーに、介護予防事業や、認知症カフェ等の事業でサポートをしてもらう。</p>	<p>通いの場などに来なくなった人への支援も、チームオレンジにつなぐことが可能と考える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・主治医との連携 ・活動の周知 	<p>認知症と診断を受けた後、サービスにつながるまでの空白の期間がある。服薬はしているが、孤立していく事例もある。診断後から早期に、地域の居場所や認知症の人が社会参加できる場とつながれると良い。</p>	<p>かかりつけ医やサポート医など主治医と連携する。主治医にチームオレンジの活動を知ってもらい、認知症の人や家族をつなげてもらえると良い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や他機関との連携 	<p>企業の参加があれば、支援出来る場や、内容も広がる。企業の社会貢献にもなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成の協力機関となっている企業（銀行、JA、わたせい、生命保険会社、セブンイレブンなど）がある。 ・企業の社会貢献として、認知症の人のニーズや、どういうことで困っているのかに対して、企業が協力してもらえる部分をチームオレンジと協働してもらえると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の周知 	<p>認知症フレンドリー宣言をする市町もある。しかし、チームオレンジの活動等を知っているか聞くと、あまり周知されていないと感じる。活動内容は関係者の中でしか、周知されていないのではないのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の普及啓発とともに、チームオレンジの活動を、住民はじめ多機関（企業、医療機関など）に広く発信していくことが大切である。 ・協力してくれる関係機関を増やすことにもつながる。

三重県オレンジ・チューター派遣制度 ～チームオレンジについて よくある質問～

Q1. チームオレンジ宣言はしなければいけませんか？

A. 主体となるボランティアや団体などと一緒に検討してください。

大々的に宣言する市町もあれば、あえて宣言しないところもあります。

Q2. ステップアップ講座を受けたボランティアに何か渡しますか？

A. 各市町村で自由に検討してください。

例としては、名札やファイルをお渡しする、修了証を発行するところがあります。

Q3. 認知症サポーターの主体性を引き出すためには、どんな工夫がありますか？

A. 「認知症サポーターは行政側に、行政側は認知症サポーターに主体となって活動してほしい」との事例は多くあります。認知症のご本人やご家族のために、まずは一緒にやってみる姿勢を持ち、話し合い進めていくことが大切です。その過程のなかで楽しさや主体性が生まれ、リーダーとなり得る方が生まれてくる場合もあります。

三重県オレンジ・チューター派遣制度 ～チームオレンジについて よくある質問～

**Q4.認知症サポーターの担い手を増やすためには、
どのような工夫がありますか？**

A.認知症のご本人のニーズや困りごとを解決するなかで、さまざまな方のご協力が必要になる場合があります。その過程のなかで繋がってくださった方に、住民サポーターや職域サポーターになっていただくのも一つの方法かと思えます。

Q5.企業を巻き込んでチームオレンジを展開していく工夫はありますか？

A.企業と連携しやすい職種としては、行政や包括支援センター、認知症地域支援推進員に強みがあると思えます。認知症のご本人のニーズや困りごと、地域の課題をもとに、企業と話し合うなかで、歩み寄れる部分や互いにしていけることが見つかることがあります。

**※これらの例の他にも、市町の特徴や強みを加味して、
オレンジ・チューターが様々な課題を一緒に考えます**

5. 三重県オレンジ・チューター派遣制度 ～県のチームオレンジ設置支援～

【三重県オレンジ・チューターの役割】

- ① 認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズと
認知症サポーターをつなげる仕組み「チームオレンジ」の**構築支援**
(助言、研修会講師等)
- ② チームオレンジの**資質向上支援** (助言、研修会講師等)

※ オレンジ・チューターとは

- 「オレンジ・チューター養成講座」(全国キャラバン・メイト連絡協議会実施)受講
- チームオレンジコーディネーター研修の講師

三重県
オレンジ・チューター
10名

5. 三重県オレンジ・チューター派遣制度 ～県のチームオレンジ設置支援～

○県では、チームオレンジ設置等に向け、依頼のあった市町へオレンジ・チューターを派遣しています。

→令和4年度 **4市町**（津市、鈴鹿市、松阪市、亀山市、いなべ市）

※令和4年度亀山市は2回派遣

→令和5年度 **7市町**（いなべ市、桑名市、松阪市、紀北町、熊野市、大台町、伊賀市）

※令和5年度桑名市、松阪市、紀北町は2回派遣

○地域の実情に応じて、派遣を行っております。

・ チームオレンジに係る国・県の目標値について

○認知症施策推進大綱（KPI）

- ・ 2025（令和7）年
- ・ 全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジなど）を整備

○三重県「みえ元気プラン」【施策2-3】介護の基盤整備と人材確保

【基本事業3：認知症になっても希望を持てる社会づくり】

認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会をめざして、それぞれの地域で本人と家族を支えるため、認知症サポーターや認知症の人によるチームオレンジ等の支援体制を構築するとともに、医療と介護の連携を図り、認知症の予防や診断後の支援等に取り組むなど、「共生」と「予防」を車の両輪として認知症の人本人に寄り添った施策を推進します。

【KPI（重要業績評価指標）】

チームオレンジ整備市町数を令和8年度29市町に設置

- ➔ 認知症の人やその家族に対する心理面・生活面の支援等を行うチームを整備した数

・認知症サポーター—活動促進・地域づくり推進事業の取扱いについて

「①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。」について

チーム・オレンジ立ち上げ時点

チーム・オレンジ立ち上げてから

必ずしもステップアップ講座を修了している必要はない。

- ・チームオレンジの運営を中心となって担うメンバーがステップアップ講座を受講していれば、チームオレンジに参加する全てのチーム員が受講している必要はない。
- ・地域支援事業実施要綱では、全てのチーム員が受講している必要はないとしているが、チームオレンジの取組の進め方や意義、認知症に関するより深い知識や他の活動事例を学ぶことが必要になると思われるため、順次、ステップアップ講座を受講していただくことが望ましい。

・認知症サポーター—活動促進・地域づくり推進事業の取扱いについて

「②認知症の人もチームの一員として参加している。 (認知症の人の社会参加)」について

本人の参加について

- ・地域支援事業実施要綱では、認知症の人にチームの一員として参加いただくことは望ましいが、一方で、本人がチームの一員として参加することは必須とはなっていない。
- ・本人の意見や意向を聞かないまま行われることがないように心掛けることが肝心である。認知症の人本人の意向をチームオレンジの活動に反映する機会を設けていることが必要である。

※「チームオレンジ三つの基本」とは、チームオレンジの取組を進めていく際の基本的な考え方(理念)を示したものであり、チームオレンジコーディネーターが各地域でチームオレンジの整備・運営を進めるための考え方や方法を示したものである。

「認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業の取扱いについて」(令和5年3月31日付厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課事務連絡)